

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	1	基本事務事業名	阿波市立図書館指定管理に伴う連絡調整事務		事務事業名	阿波市立図書館指定管理に伴う連絡調整事務		公的関与	7	シート作成日	平成30年7月20日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課			主務課長名	伊坂好史			シート作成者名	酒巻美香			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☒ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(3)生涯学習の充実				☒ 1 該当		平成 19 年 ~ 平成 32 年		☐ 期間設定なし					
		主要施策		(2)生涯学習関連施設の整備充実・機能強化				☐ 2 非該当		根拠法令等		阿波市立図書館条例					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		指定管理者													
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	民間企業のノウハウを活用しながら、本市の生涯学習施設の拠点として、市民サービスの向上と効率的かつ効果的な施設の運営管理を図ります。												
				今年度	指定管理者と連携しながら、計画的な設備等の更新を進めます。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 指定管理者が円滑に図書館運営できるように連絡調整事務を行います。																
	②																
	③																
	④																
	⑤																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	入館者数		住民ニーズの指標として		人	目標	185,000	185,000	185,000	185,000							
						実績	181,300	168,374									
	貸出冊数		住民ニーズの指標として		冊	目標	290,000	300,000	300,000	300,000							
						実績	290,473	282,929									
						目標											
						実績											
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10 教育費			項	5 社会教育費			目	5 図書館管理費		
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	89,164 千円		88,133 千円		88,133 千円										
		計(A)	89,164 千円		88,133 千円		88,133 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.350 人	2,037 千円	0.350 人	2,075 千円	0.300 人	1,742 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		91,201 千円		90,208 千円		89,875 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	指定管理者制度導入以後、入館者数や利用者数は増加しています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	指定管理者が円滑に業務を進めていくためには、市との連携は必要不可欠です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	前年度に比べると入館者数・貸出冊数が減っていますが、多くの市民に図書館が利用されています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	指定管理料の中で、創意工夫して図書館運営できています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	指定管理者による運営は安定していますが、入館者数・貸出冊数が前年度に比べると減少していることが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	図書館利用者が増えるように指定管理者を支援していきます。					指定管理者の管理運営に対する評価を適切に行います。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	2	基本事務事業名	図書選定事務	事務事業名	図書選定事務	公的関与	7	シート作成日	平成30年7月20日		
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂好史		シート作成者名	酒巻美香			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(3)生涯学習の充実				☒ 1 該当		平成 19 年 ~ 平成 年		☐ 期間設定なし		
		主要施策		(2)生涯学習関連施設の整備充実・機能強化				☐ 2 非該当		根拠法令等		阿波市立図書館条例		
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	市民											
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	図書館が所蔵する資料を充実させることにより、市民の生涯学習活動を支援します。										
			今年度	利用者のニーズを的確に把握しながら、図書館で定めた選書基準に基づいて図書館資料を収集します。										
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 購入希望の図書館資料が適切であるか、市が設置する図書選定委員会で審査します。													
	② 各図書館の特色を生かしながら、市全体として偏りのない蔵書構成を目指します。													
	③ 図書館が除籍を希望する資料についても、事前に図書選定委員会で審査します。													
	④													
	⑤													
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標				
	蔵書資料		市民サービスの指標として		点	目標	310,000	315,000	315,000	330,000				
						実績	308,899	311,820						
						目標								
						実績								
						目標								
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	5	図書館管理費
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	186 千円		184 千円		188 千円							
		計(A)	186 千円		184 千円		188 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.350 人	2,037 千円	0.350 人	2,075 千円	0.300 人	1,742 千円						
		臨時・嘱託職種												
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		2,223 千円		2,259 千円		1,930 千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	図書選定は指定管理者が実施していますが、市の財産であるため、市の関与は必要です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	指定管理者が特定の分野に偏らないように選定・収集できます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	市全体で見ると、各図書館で特色のある蔵書構成が形成されていると考えます。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	円滑に選定作業ができています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止			
	当面の課題	限られた資料購入予算の中で、利用者のニーズや各図書館の蔵書構成に配慮できるかが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	引き続き、選定基準に沿った資料の収集を図るだけでなく、図書選定委員による審査を実施します。					図書選定については、利用者のニーズやバランスを考慮し、予算内で充実した図書購入に努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	4	基本事務事業名	人権教育・啓発事業	事務事業名	人権教育・啓発事業	公的関与	4	シート作成日	平成30年7月12日				
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂好史	シート作成者名	三橋徹也						
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託					
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等					
	総合計画	基本構想(政策)					6. 共に生き、共につくる阿波		実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)					(1) 人権尊重社会の確立		☒ 1 該当		平成	年	～	平成	年	☒ 期間設定なし
		主要施策					(2) あらゆる場を通じた人権教育・啓発の推進		☐ 2 非該当		根拠法令等		社会教育法			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市民及び市内に勤務する企業職域社員												
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	市民から様々な差別意識をなくします。											
				今年度	様々な人権問題について学習・交流する場を提供し人権意識の高揚を図ります。											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)															
	① 市内全域において、あらゆる人権講座(心のリフォーム学級)を開設し市民の差別意識をなくします。															
	② 人権フェスティバルを開設し、様々な人権テーマについて交流・学習をします。															
	③ 阿波市児童生徒作品集を全戸配布し市民の人権意識の高揚を図ります。															
	④ 市内の事業所における人権問題研修会を開催し、人権意識の高揚を図ります。															
	⑤															
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標						
	人権講座(心のリフォーム学級)		市内全域に広報・啓発し各町4カ所で開催します。		回	目標	16	16	16	20						
						実績	15	16								
	企業職域人権研修会		研修する企業数の増加を図ります。		回	目標	4	4	4	5						
						実績	1	1								
						目標										
						実績										
DO	予算費目	会 計	款			項	目									
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考										
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円									
		県支出金	千円		千円		千円									
		地方債	千円		千円		千円									
		その他特定財源	千円		千円		千円									
		一般財源	3,351 千円		3,541 千円		4,008 千円									
		計(A)	3,351 千円		3,541 千円		4,008 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円	0.250 人	1,482 千円	0.250 人	1,451 千円								
		臨時・嘱託職種														
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円								
	全体事業費(A+B)		4,806 千円		5,023 千円		5,459 千円									

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	部落問題についての差別意識が根強く残っている現実があり、各種研修会などの学習機会を提供し、正しい人権教育を推進しなければなりません。明るいまちづくりのためにも、行政が人権教育をより一層推進する必要があります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	差別意識をなくすための心の変革には時間が必要。継続的・計画的な事業を実施し、さまざまな学習機会を提供することが必要です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	学習機会の提供については、研修内容(回数・時間・研修密度)を変更しながら前進しています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	市民の心の変革を推進するためには、講演会・学習会などの講師及び教材が必要です。知名度の高い講師などが必要であると共に、実践力の伴う講師を招へいする必要がありますがコストが高くなるため検討が必要です。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	市民の人権意識の格差を無くすため、講座を開設していますが参加者が固定化しているため、効果が上がっていない現状にあります。多くの市民が研修会に参加できるとともに、企業職域社員参加者の増員が図れるよう取り組む必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	学習機会の場を増やすために1年を通して講座を開設する必要があります。どこかで人権に関する講座が開催できるよう推進体制(事務局)を生かし人権意識の向上に努めます。					他部局とも連携を図り、多くの参加者が得られるよう努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	5	基本事務事業名	人権教育推進協議会事務	事務事業名	人権教育推進協議会事務	公的関与	4	シート作成日	平成30年7月12日					
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂好史		シート作成者名	三橋徹也					
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		6. 共に生き、共につくる阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(1)人権尊重社会の確立				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(2)あらゆる場を通じた人権教育・啓発の推進				☐ 2 非該当		根拠法令等		社会教育法					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	市内の各団体の連絡・提携・調査研究・資料の収集及び配布・研究会・講習会・講演会などの開催及び参加														
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	市内のあらゆる差別の撤廃を目的とします。													
			今年度	人権教育の正しい理解と実践について研究協議し、その推進を図ります。													
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 吉野川安定所管内人権啓発企業連絡会の開催及び参加します。																
	② 各種人権問題講演会及び研修会に参加し調査研究をします。																
	③ 市内で人権フェスティバルを開催し人権意識の高揚を図ります。																
	④																
	⑤																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	市職員・教職員の各種研究大会		県内外の研究大会に参加し研修します。		回	目標	5	5	5	5							
						実績	5	5									
	人権フェスティバル		市民を中心とした人権啓発をします。		回	目標	1	1	1	1							
						実績	1	1									
						目標											
						実績											
DO	予算費目	会 計		款		項		目									
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考											
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	2,100 千円		2,100 千円		2,100 千円										
		計(A)	2,100 千円		2,100 千円		2,100 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円	0.250 人	1,482 千円	0.250 人	1,451 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		3,555 千円		3,582 千円		3,551 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	市民の様々な人権に関する意識の改革については、行政が中心となる必要があります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	市民の意識改革については、継続した事業実施の必要があります。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	町単位で意識のばらつきがあるので、市内全域での継続的に事業を実施する必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☒ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	市民の意識改革なので、人対人の関わりの中で、意識改革を地道に行っていく必要があります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	2	3	B	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	講演会・研修会などを開催しても参加者が少なくまた、参加者が固定化してきています。若年層の参加を促すためにも研修内容の検討が必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	各地区の老人クラブ・婦人会・幼・小・中・人権擁護委員・民生児童委員等連携して参加者を募り、また、ACN及び市の広報誌に掲載し参加を促し参加者が固定化しないように啓発をします。					事業内容について、マンネリ化しないように検討し進めます。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	6	基本事務事業名	学力向上活動事務	事務事業名	学力向上活動事務	公的関与	4	シート作成日	平成30年7月12日				
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂好史	シート作成者名	三橋徹也						
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託					
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等					
	総合計画	基本構想(政策) 6. 共に生き、共につくる阿波					実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策) (1)人権尊重社会の確立					☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策 (2)あらゆる場を通じた人権教育・啓発の推進					☐ 2 非該当		根拠法令等		社会教育法					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	吉野町一条小学校児童・柿原小学校児童・吉野中学校生徒・市場町八幡小学校児童・各校保護者対象													
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	人権教育を中心に捉えた教育活動の中で、人権尊重の精神を育成し、基礎学力の定着や、子ども会活動による連帯感を養うことを目的とします。												
			今年度	人権活動に講師・指導員が熱意をもって指導にあたり連帯感を養います。												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)															
	① 教科学習(学校の宿題や指導員が作成した教材を用いて学習の補充をし、家庭学習への定着を目指します。)															
	② 人権学習(主にビデオやパンフレットを活用し学習します。生徒向けの講演会を開催し人権学習をします。)															
	③ 子ども会活動(行事を通して友だちとの交流を深めます。また、家族や地域の人たちとの交流を深めます。)															
	④ 保護者会人権学習会の開催をします。また、各会場にて、月1回の子どもの学力・学習態度等について懇談します。															
	⑤ 月1回吉野地区・八幡地区において保護者会を開催します。各会場で児童・生徒また保護者に対して人権学習・啓発を行います。															
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標						
	学力向上(指導)		小学生 週1回から2回 中学生 週1回開催します。		回	目標	50	50	50	50						
						実績	50	50								
	人権学習		毎月1回開催します。		回	目標	15	15	15	15						
						実績	15	15								
	子ども会活動		土・日曜日 長期休日 年間10回指導します。		回	目標	10	10	10	12						
実績						10	10									
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	人権教育費		
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考							
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円									
		県支出金	千円		千円		千円									
		地方債	千円		千円		千円									
		その他特定財源	千円		千円		千円									
		一般財源	650 千円		650 千円		650 千円									
		計(A)	650 千円		650 千円		650 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人	1,164 千円	0.200 人	1,186 千円	0.200 人	1,161 千円								
		臨時・嘱託職種	学力向上推進講師		学力向上推進講師		学力向上推進講師									
		臨時・嘱託工数・経費	3.000 人	5,940 千円	3.000 人	5,940 千円	3.000 人	5,940 千円								
	全体事業費(A+B)		7,754 千円		7,776 千円		7,751 千円									

		チェック項目		一次評価		一次評価の説明		二次評価			
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	地元の子ども基礎学力の定着と人権学習を行う場として保護者の要望があるかぎり行政が携わり継続していく必要があります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	3名の指導員が事業に携わり学習(人権教育を含む)指導を熱心に行っています。学校とは違う環境の中で仲間とともに勉強することによる習慣づけ、家庭学習の定着や仲間づくりの場として有効であり必要です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	人と話するのが苦手な子ども、友だちとの協調性がとれない子どももいますが時間がたつにつれて打ち解け合いのもてる関係が築けています。今後も継続して指導していく必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	学力の向上・人権意識の向上は積み重ねていくものです。今後も手段を選びながら継続していく必要があります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	2	B	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☒ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	子ども会活動において、学年の違う子ども同士の連帯感が出てこない。全会場(3会場)の保護者会への参加(関わり)が少ないのが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	今後も学力支援事業を継続し地元住人・また保護者同士の関わりを密にして様々な生き方をしてきた人の話を聞き人権を学びます。					子供とも保護者の要望を把握し、事業は継続していくことが大切です。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	7	基本事務事業名	教育集会所管理運営事業	事務事業名	教育集会所管理運営事業	公的関与	4	シート作成日	平成30年7月12日				
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂好史		シート作成者名	三橋徹也				
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託					
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等					
	総合計画	基本構想(政策)					6. 共に生き、共につくる阿波		実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)					(1) 人権尊重社会の確立		☒ 1 該当		平成	年	～	平成	年	☒ 期間設定なし
		主要施策					(2) あらゆる場を通じた人権教育・啓発の推進		☐ 2 非該当		根拠法令等		社会教育法			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市民の多くの学習機会の場(いつでも・誰とでも気軽に参加できる学習の場として、市内に13館あります。)												
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	教育集会所(建物・備品)の老朽化が進んでいるので耐用年数を経過している建物から閉館します。(取り壊しも含む)											
				今年度	建物の耐用年数は、鉄筋造 60年 木造 24年の規定があります。(吉野町10館鉄筋造・30年～35年経過・市場町2館木造37年～40年経過 阿波町木造35年経過) 木造については、耐用年数が経過しているため取り壊すことが可能ですので検討する必要があります。											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)															
	① 吉野原教育集会所については、学力向上事業でのみ定期的に使用しています。															
	② 吉野中央教育集会所については、吉野中学校が管理しています。															
	③ その他の吉野町の集会所については、教育集会所としての使用はなく、主に一般的な集会所として地元住民に使用されています。															
	④ 市場町2館と阿波町1館の教育集会所は数年前から閉鎖しています。															
	⑤ 吉野旭教育集会所は来年度に取り壊し予定です。															
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標						
	使用回数		数値目標の設定が難しい。		回	目標										
					回	実績										
						目標										
						実績										
						目標										
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	人権教育費	
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考							
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円									
		県支出金	千円		千円		千円									
		地方債	千円		千円		千円									
		その他特定財源	千円		千円		千円									
		一般財源	1,904 千円		1,165 千円		2,841 千円									
		計(A)	1,904 千円		1,165 千円		2,841 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人	1,164 千円		0.200 人	1,186 千円		0.200 人	1,161 千円						
		臨時・嘱託職種	学力向上推進講師		学力向上推進講師		学力向上推進講師									
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		3,068 千円		2,351 千円		4,002 千円									

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☒ 少ない	☐ 大きい	子どもの学習場所がない時代(32年前から42年前)に建設された施設であり、教育集会所としての役目は終えていると考えられます。	☒ 少ない	☐ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☒ ない	☐ ある		☒ ない	☐ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☒ いえない	☐ いえる	吉野原教育集会所については、定期的に使用していますが、その他については、教育集会所としての使用頻度は低いと考えられます。	☒ いえない	☐ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☒ いえない	☐ いえる		☒ いえない	☐ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☒ する	☐ しない		☒ する	☐ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☒ できない	☐ できる		☒ できない	☐ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☒ 目標に比べて劣っている	吉野原教育集会所については、定期的に使用していますが、その他については教育集会所としての使用はほとんどありません。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	市民の教育に関する考えが32年～42年前と異なり、家庭での学習・塾に通っての学習がほとんどです。教育集会所としての役目はほとんど終えたと考えられます。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		1	1	1	1	D	1	1	3	3	C
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☒ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	このまま老朽化させるのか、一部手直しをして地域住民とともに管理し使用するのか早急に判断する必要があります。(伊月・香美・林教育集会所については木造耐用年数24年を大幅に過ぎています。)除却については多大な費用が必要となり今後の課題であります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	民間委託の方法がとれないのであれば、老朽化した建物を耐用年数が経過したものから閉館していく必要があります。					公共施設個別管理計画に基づき、利用状況・老朽化等を精査し、今後のスケジュールを検討する。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	8	基本事務事業名	生涯学習(各種講座等)事業	事務事業名	生涯学習(各種講座等)事業	公的関与	8	シート作成日	平成30年7月20日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂好史		シート作成者名	酒巻美香				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(3)生涯学習の充実				☒ 1 該当		平成	年	～	平成	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(5)特色ある生涯学習プログラムの整備・提供				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	市民												
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	地域資源と人材を最大限に活用しながら、各年代にふさわしい魅力的で多様な学習講座を提供します。											
			今年度	地域資源と人材を最大限に活用しながら、各年代にふさわしい魅力的で多様な学習講座を提供します。											
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 講座を企画し、広報紙といっしょに募集チラシを配布することにより受講生を募集し、講座を開催しています。														
	② 市の各種団体を活用するなどして、講師を確保しています。														
	③ 受講生にアンケートを実施して、市民ニーズを把握し、次年度の講座を企画する際に活用しています。														
	④ 親子で参加できる講座や外国語講座など、多種多様な講座となるように企画します。														
	⑤														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	講座受講者数(延べ)		住民ニーズの指標として		人	目標	2785	2285	2016						
						実績	2591	1662							
	その他(講座以外)来場者数		住民ニーズの指標として		人	目標	1000	2000	2000						
						実績	1220	1370							
						目標									
						実績									
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円								
		県支出金	千円		千円		千円								
		地方債	千円		千円		千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	1,800 千円		1,800 千円		1,800 千円								
		計(A)	1,800 千円		1,800 千円		1,800 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.900 人	5,237 千円	0.900 人	5,337 千円	1.000 人	5,805 千円							
		臨時・嘱託職種	社会教育指導員		社会教育指導員		社会教育指導員								
		臨時・嘱託工数・経費	0.900 人	1,620 千円	0.900 人	1,620 千円	1.000 人	1,800 千円							
	全体事業費(A+B)		8,657 千円		8,757 千円		9,405 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	生涯学習講座に対する市民のニーズは高く、市民の自発的な学びのきっかけづくりとして必要です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	市民のニーズや講座の継続年数を考慮し、講座を入れ替えながら開催しています。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	講座の定員数に達していない講座もありますが、ほとんどの講座で目標を達成できています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	講座の開催に係る経費を抑えながら、多くの方に受講してもらえるような講座・講師を企画しています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 3	有効性 4	達成度 3	効率性 3	総合評価 A	必要性 3	有効性 4	達成度 3	効率性 3	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小		☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小		☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等
	当面の課題	新規の受講者、特に20～40歳代の方の受講率が低いのが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	受講者のニーズを把握するため、アンケートを実施します。また、次年度の講座を計画するときには、幅広く情報を収集して、性別・年齢を問わず、新規受講者が参加しやすい講座を企画します。					幅広い年代層の参加者の増加に努めます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	9	基本事務事業名	青少年健全育成市民会議事業	事務事業名	青少年健全育成市民会議事業	公的関与	8	シート作成日	平成30年7月20日					
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	村尾 茉優					
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☒ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(6) 青少年の健全育成				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(1) 健全育成体制の充実				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		市内の青少年													
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	時代を担う青少年の健全育成・非行防止等を図る事を目的としています。												
				今年度	健全育成市民会議総会の決議に基づいて、学校補助事業・講演会事業・体験事業・啓発事業を実施します。												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 青少年健全育成の啓発活動の推進や、自然体験講座の実施をはじめとする青少年の健全育成に向けた各種の事業を行います。																
	②																
	③																
	④																
	⑤																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
			事業が多岐にわたるため			目標											
						実績											
						目標											
						実績											
						目標											
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	11	社会教育総務費			
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円						
		県支出金			千円			千円			千円						
		地方債			千円			千円			千円						
		その他特定財源			千円			千円			千円						
		一般財源	1,300		千円	1,300		千円	1,300		千円						
		計(A)	1,300		千円	1,300		千円	1,300		千円						
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250	人	1,455	千円	0.250	人	1,482	千円	0.250	人	1,451	千円			
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費		人	0	千円		人	0	千円		人	0	千円			
	全体事業費(A+B)		2,755		千円	2,782		千円	2,751		千円						

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	阿波市の次世代を担う青少年の健全育成にとって必要な事業です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	毎年夏休みに小学生を対象に体験事業を行っています。また少ない予算ですが、各小中学校においてそれぞれの特色を生かした育成事業を実施しています。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	おおむね達成できています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	他の機関(警察・青少年育成センター・小中学校)と連携を取りながら社会環境に対応した事業を行っています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	今後は、めまぐるしく変わる社会やさまざまな情報の叛乱、多種多様な犯罪が起こる中、青少年の健全を図るためにいかに有効な事業を展開していけるかが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	多種多様な要望がある中、青少年の興味を引く内容で、かつ効率のよい事業を展開していきます。					関係機関と連携しながら取り組みを継続します。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	10	基本事務事業名	成人式事務	事務事業名	成人式事務	公的関与	8	シート作成日	平成30年8月16日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	杉山 洋				
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(6) 青少年の健全育成				☐ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☐ 期間設定なし			
		主要施策		(2) 健全な社会環境づくりの推進				☒ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)	市内に住民票を有する成人式該当者及び市外に住民票を有する阿波市成人式への出席希望者												
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	新成人を市を挙げて祝い、多くの成人式該当者が、新成人としての自覚と責任を認識し社会生活を営めるようにします。											
			今年度	新成人で成人式実行委員会を組織し、式典の企画・運営をするよう協力・支援をします。											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 成人式該当者への通知をします。														
	② 新成人で成人式実行委員会を組織し、式典の企画・運営について協議します。														
	③ 式典に関する準備をします。														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	成人式出席者数				人		目標 408 実績 308	370 303	339	成人到達者数					
							目標 実績								
							目標 実績								
							目標 実績								
							目標 実績								
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円		千円		千円						
		県支出金			千円		千円		千円						
		地方債			千円		千円		千円						
		その他特定財源			千円		千円		千円						
		一般財源	1,229 千円		1,403 千円		1,358 千円								
		計(A)	1,229 千円		1,403 千円		1,358 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円		0.250 人	1,482 千円		0.250 人	1,451 千円					
		臨時・嘱託職種													
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円						
全体事業費(A+B)		2,684 千円		2,885 千円		2,809 千円									

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	新成人としての自覚と責任を認識し、社会人への門出として式典は必要です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	新成人で成人式実行委員会を組織して、企画内容・運営方法等について検討し実施しています。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	式典に参加することにより、社会人としての自覚を認識する機会であるので、成人式の開催については、意義があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	新成人による実行委員会を実施しているが、自主的に参加する成人が少ないです。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	新成人による成人式実行委員会を組織しているが、例年自主的な立候補者がほとんどいません。実行委員をどう確保するのか検討する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	自主的な運営ができる体制を確保するため、新成人に対する周知方法を検討し、積極的な自主参加が得られるよう努めていきます。					今後も自主運営ができるよう指導・協力し、多くの参加者が得られるよう努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	11	基本事務事業名	芸術・文化振興事業		事務事業名	芸術・文化振興事業		公的関与	2	シート作成日	平成30年7月20日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課			主務課長名	伊坂好史			シート作成者名	酒巻美香			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(5)文化芸術の振興				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(1)文化団体、指導者の育成				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)	市民、阿波市文化協会会員														
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	阿波市の芸術・文化の振興を図ります。													
			今年度	市内文化・芸術団体の中心的な活動組織である阿波市文化協会の活動や市文化祭の開催を支援し、芸術・文化の振興を図ります。 文化協会会員を講師とする生涯学習講座を開催します。													
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 市民全体の活動を活性化するため、文化協会を中心とした各団体の活動を支援します。																
	② 市文化祭など文化協会との共催事業を実施することにより、より多くの市民に文化芸術鑑賞や発表機会を作ります。																
	③ 文化協会加入団体等の文化・芸術団体会員を講師とする生涯学習講座を開催することにより、指導者の育成を図ります。																
	④																
	⑤																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	文化協会加入団体等の文化・芸術団体会員を講師とする生涯学習講座数		講座数		講座	目標	4	4	4	4 ↑							
						実績	4	4									
						目標											
						実績											
						目標											
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	10 教育費		項	5 社会教育費		目	1 社会教育総務費			
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金			千円		千円		千円								
		県支出金			千円		千円		千円								
		地方債			千円		千円		千円								
		その他特定財源			千円		千円		千円								
		一般財源	1,620 千円		1,620 千円		1,620 千円										
		計(A)	1,620 千円		1,620 千円		1,620 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	582 千円		0.100 人	593 千円		0.100 人	581 千円							
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円		人	0 千円		人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		2,202 千円		2,213 千円		2,201 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	文化団体や指導者育成のため、市内文化・芸術団体の中心的な活動組織である文化協会への補助金交付事業は妥当です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	市文化協会の開催、協会会員による生涯学習講座の講師など、市民の芸術・文化活動の活性化や指導者育成に寄与しているため、今後も成果が期待できます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	市文化協会を中心に、活発に文化・芸術活動が行われています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	補助金を有効に活用して活動できています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	3	3	A	3	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	文化行事の充実を図るとともに、団体の主体性を低下させることのないよう、協力関係を構築し、文化・芸術活動を支援していく必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	引き続き文化協会との共催事業の実施します。また、文化協会会員等の文化・芸術団体を講師とする生涯学習講座の講座数が増やせるかどうか検討します。					各種団体と連携しながら、事業の推進に努めます。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	12	基本事務事業名	阿波シティマラソン		事務事業名	阿波シティマラソン		公的関与	8	シート作成日	平成30年7月25日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	井形 凌					
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(4)スポーツの振興				☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし					
		主要施策		(4)幅広いスポーツ活動の普及促進				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市内外のマラソン愛好家													
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	マラソンを通して健康増進と世代間交流を兼ね備えたスポーツイベントとして普及促進に努めます。												
				今年度	実業団選手を招待し、ハーフマラソンほか各部門別コースにより阿波市役所を発着点として実施します。広報誌などにより市民の方の参加が増えるよう努めます。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① マラソン大会要項の決定																
	② 道路使用許可申請に関すること																
	③ 参加者募集及び参加申込書の受付																
	④ 大会役員及び従事者の連絡調整																
	⑤ 部門別表彰式及び完走証の付与																
数値目標 (事業の目的 及び活動内容 の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	参加者数		部門別参加者数での開催			目標	1000	1000	1000	1000							
						実績	918	1008									
						目標											
						実績											
						目標											
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費			
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円									
		県支出金			千円			千円									
		地方債			千円			千円									
		その他特定財源			千円			千円									
		一般財源	8,916 千円		9,125 千円		9,774 千円										
		計(A)	8,916 千円		9,125 千円		9,774 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.313 人	1,821 千円	0.313 人	1,856 千円	0.313 人	1,817 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		10,737 千円		10,981 千円		11,591 千円										

CHECK		チェック項目					一次評価		一次評価の説明		二次評価	
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。					☐ 少ない	☒ 大きい	総合計画に掲げるスポーツ振興を推進するために、子どもから高齢者まで幅広く市民が参加できるスポーツイベントとして位置づけられています。	☐ 少ない	☒ 大きい	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。					☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある	
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。					☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない	
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。					☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。					☐ いえない	☒ いえる	スポーツ活動を通して主体的な健康づくりを促進し、市民参加型のスポーツイベントとして定着することで、まちの活性化を図ります。	☐ いえない	☒ いえる	
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。					☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。					☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。					☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。					☐ 目標に比べて劣っている	マラソン参加者は、とくしまマラソンの影響や健康志向の高まりに伴い、増加傾向にあります。	☐ 目標に比べて劣っている			
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。					☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない			
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。					☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している			
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。					☐ 十分達成している		☐ 十分達成している			
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。					☐ 高い	☒ 適当	全国的なマラソンブームやスポーツ振興の観点から継続して実施する必要があります。しかし、実施方法の見直しや経費の削減についても考えていく必要があります。	☐ 高い	☒ 適当	
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。					☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない	
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。					☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。					☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
ACTION	一次評価					二次評価						
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		3	4	3	3	A	3	4	3	3	A	
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		
	当面の課題	市民のマラソン大会への参加やボランティアスタッフとしての参加など阿波市全体で作り上げるイベントとして、広報活動を推進する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点					
	改革案と実行計画	事業を継続するためには、他の実施主体のノウハウなどを活用するなど費用対効果の精査をする必要があります。					市民参画の工夫や地域住民に対するイベントの周知方法について検討します。					
委員会指摘事項												

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	13	基本事務事業名	ジュニア駅伝		事務事業名	ジュニア駅伝		公的関与	8	シート作成日	平成30年7月27日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	元木 駿介					
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(4) スポーツの振興				☐ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☐ 期間設定なし					
		主要施策		(4) 幅広いスポーツ活動の普及促進				☒ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市スポーツ少年団団員													
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	青少年健全育成・スポーツ振興の交流を目的とします。												
				今年度	多くの少年団に参加してもらう為に各少年団の大会に重ならないように日程調整をします。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 大会要項の決定																
	② 各少年団との連絡調整																
	③ 大会役員との連絡調整																
	④ 部門別表彰																
	⑤ 大会準備																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	参加チーム数		各チーム対抗での開催		チーム		目標 35 実績 29	35 25	35	35							
							目標 実績										
							目標 実績										
							目標 実績										
							目標 実績										
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費		
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	227 千円		215 千円		220 千円										
		計(A)	227 千円		215 千円		220 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.125 人	727 千円	0.125 人	741 千円	0.125 人	726 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		954 千円		956 千円		946 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	ジュニア駅伝を通して、青少年の健全育成や小学生の相互交流の場となるので有効です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	少年団の交流の場となり、また、青少年健全育成と体力向上につなげるために必要です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	各団の大会等が重ならないように多くの団が参加できるような日程調整が必要です。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	効率よく実施できています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止			
	当面の課題	多くの少年団が参加できるような日程調整をし、ジュニア駅伝を通じて、普段はあまり交流のない学校や競技の間での各少年団員及び各少年団との連携・親睦を図ることを目標とします。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	保護者との親睦を図れるような、企画を考えて各団の団員・指導者の連携を図ります。					より多くの子供たちが参加できるようにする等、更なる事業効果を目指し、継続して実施します。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	14	基本事務事業名	徳島駅伝事務	事務事業名	徳島駅伝事務	公的関与	8	シート作成日	平成30年7月27日		
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	元木 駿介			
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策) 3. 人が輝き合う阿波					実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策) (4)スポーツの振興					☐ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☐ 期間設定なし			
		主要施策 (4)幅広いスポーツ活動の普及促進					☒ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		徳島駅伝阿波市選手団及び役員										
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	徳島駅伝を通じて、県下に陸上競技の発展と普及を図り、競技者が正しい訓練を重ね、技術を磨き、健康な身体と健全な精神の育成を支援して社会に貢献できる人材育成を目的とします。									
				今年度	前回までの大会結果をふまえ、阿波市陸上競技協会と共に競技者の底辺拡大と競技者数の増加、競技力の向上に努めます。今年度から夏合宿に取り組みます。									
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 徳島駅伝競技運営の連絡調整													
	② 阿波市選手団練習会及び選手選考会の開催													
	③ 阿波市選手団本部の設置													
	④ 徳島駅伝中継所役員の連絡調整													
	⑤ 結団式及び解団式													
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標				
			目標設定及び達成度を測ることはできません。			目標								
						実績								
						目標								
						実績								
						目標								
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	4,100 千円		4,000 千円		4,800 千円							
		計(A)	4,100 千円		4,000 千円		4,800 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円	0.500 人	2,965 千円	0.500 人	2,903 千円						
		臨時・嘱託職種												
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	人	0 千円							
全体事業費(A+B)		7,010 千円		6,965 千円		7,703 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	徳島県郡市対抗駅伝であり、新春に徳島県下が盛り上がるイベントです。毎年参加することにより競技者・指導者の増加や競技力の向上を目指し、郷土愛と住民の連帯感を高めることを目指します。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	阿波市内の中学生から社会人までの交流及び市町村間の交流、さらにスポーツ少年団と連携しジュニアから一貫した育成に有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	毎年の積み重ねの成果により成績は少しずつ上がっており、挨拶などの礼儀や襷をつなぐための責任感など精神面も鍛えられています。また、それに伴い市民の関心も高まり、阿波市が一体となって戦う雰囲気が出てきて	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	宿泊費の削減など、新たな取り組みも考える必要があります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	人材発掘のため、各マラソン大会に出場している選手等を勧誘して競技者を増やしたり、各学校やスポーツ少年団と連携してジュニア期からの一貫した選手育成をすることでより地域に根ざした運営をしていくことが必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	今後の長期的な視野からも、競技人口の拡充を図るために、各小中学校・高等学校と連携し、ジュニアからの段階的・継続的な育成を進めていくことが重要課題です。					指導者・選手の育成を継続的に実施します。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	15	基本事務事業名	スポーツ推進委員会事務	事務事業名	スポーツ推進委員会事務	公的関与	8	シート作成日	平成30年7月27日		
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	元木 駿介			
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)					3. 人が輝き合う阿波		実施計画		事業の開始・終了			
		基本計画(施策)					(4) スポーツの振興		☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし	
		主要施策					(4) 幅広いスポーツ活動の普及促進		☐ 2 非該当		根拠法令等			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		運動・スポーツに興味、関心のある市民										
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	「市民ひとり1スポーツ」を目指し、地域スポーツの振興と定期的なスポーツの実施率の向上を目的とします。									
				今年度	市民の生涯スポーツの普及・振興を図ることを目的とします。									
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 各研修会への参加													
	② ニュースポーツ・レクリエーション教室の開催													
	③ 広報活動													
	④ スポーツ推進員の派遣													
	⑤ 定例会の開催													
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標				
	定例会等活動数		活動数		回		目標 40	40	40	40				
							実績 18	14						
							目標							
							実績							
							目標							
							実績							
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	1,781 千円		1,709 千円		2,037 千円							
		計(A)	1,781 千円		1,709 千円		2,037 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円	0.250 人	1,482 千円	0.250 人	1,451 千円						
		臨時・嘱託職種												
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		3,236 千円		3,191 千円		3,488 千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	ニュースポーツを中心とした生涯スポーツの普及振興にスポーツ指導員は重要な存在です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	ニュースポーツ・レクリエーション活動など子どもから大人まで楽しめる活動の普及に有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	概ね達成出来ています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	効率よく活動出来ています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	スポーツ推進委員の世代交代を図るとともに、より多くの市民の参加が得られるスポーツの振興・普及活動によりいっそう努める必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	スポーツ推進委員の資質向上・意識改革を進めるとともに地域スポーツ団体や学校体育振興に対して、委員の活動を幅広くPRすることにより、地元でのスポーツ推進委員に対する意識を広く浸透させ、スポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を増やします。					生涯スポーツに対する意識向上、健康増進に寄与するよう努めます。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	16	基本事務事業名	総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	事務事業名	総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	公的関与	8	シート作成日	平成30年7月27日		
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	元木 駿介		
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)				3. 人が輝き合う阿波		実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)				(4)スポーツの振興		☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし		
		主要施策				(3)スポーツ団体、指導者の育成		☐ 2 非該当		根拠法令等				
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		スポーツクラブ会員										
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	子どもから高齢者までのあらゆる世代のために楽しいクラブライフの創造を目指し、地域コミュニティの核として、スポーツ及び文化的活動を通し、地域住民の健康づくり・地域社会の活性化・青少年の健全育成に寄与することを目的とします。									
				今年度	事業の見直しや会員が主体的に企画運営できるクラブづくりに努めるよう指導します。									
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① スポーツ・レクリエーション教室等の開催													
	② スポーツ・レクリエーション大会の開催													
	③ 理事会・総会の開催													
	④ 広報活動													
	⑤ スポーツ体験会の開催													
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標				
	地域総合型スポーツクラブ会 員数		会員数		人		目標	350	350	350	350			
							実績	324	236					
							目標							
							実績							
							目標							
							実績							
							目標							
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	1,200 千円		1,300 千円		1,400 千円							
		計(A)	1,200 千円		1,300 千円		1,400 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円	0.250 人	1,482 千円	0.250 人	1,451 千円						
		臨時・嘱託職種	総合型SCコーディネーター		総合型SCコーディネーター		総合型SCコーディネーター							
		臨時・嘱託工数・経費	0.250 人	480 千円	0.250 人	480 千円	0.250 人	480 千円						
	全体事業費(A+B)		3,135 千円		3,262 千円		3,331 千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	文科省が中学校区単位に1つのスポーツクラブの設立を推進する事業です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	市民の日々の健康づくりや仲間づくり、地域の活性化に有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	現在、吉野・土成・阿波中学校区にそれぞれスポーツクラブを設立し運営しています。阿波市民に幅広く活用されるよう、推進する必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	補助金に対する費用対効果を精査し、効果的な事業を実施していく必要があります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	各スポーツクラブが地域の実情に即した事業の企画・運営に努めましたが、まだまだ地域の方々に浸透していません。クラブ会員を増加するために広報活動等を実施するなど指導していく必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	各スポーツクラブが地域コミュニティの核として、地域住民の健康づくり・地域社会の活性化・青少年の健全育成に寄与するためには、スポーツクラブ間及び地域の既存スポーツ団体等と連携するとともに、地域の実情を加味したうえでクラブの方向性を決め、事業を推進していく必要があります。					自立運営を行っていくためには、会員数の確保が重要であり、広く市民への周知に努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	17	基本事務事業名	阿波市体育協会事務		事務事業名	阿波市体育協会事務		公的関与	8	シート作成日	平成30年7月27日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	元木 駿介					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(4) スポーツの振興				☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし					
		主要施策		(4) 幅広いスポーツ活動の普及促進				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市体育協会会員(阿波市で活動するスポーツ団体)													
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	阿波市におけるスポーツ活動振興を図り、市民の心身の健全な発達と健康の増進、体力、競技力の向上を目指すとともに、明るく豊かなまちづくりに寄与することを目的とします。												
				今年度	スポーツ少年団から社会人チームまで幅広く選手と指導者の育成に努めるとともに、加盟団体の増加を目指します。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 各競技団体の選手の育成																
	② 各競技団体の指導者の育成																
	③ 各種スポーツ教室																
	④ 体育協会総会・理事会の開催																
	⑤ スポーツ団体の加盟促進																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	会員数		体育協会会員数		人		目標 3500	3500	3500	3500							
							実績 2570	2230									
							目標										
							実績										
							目標										
							実績										
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	6	保健体育費	目	1	保健体育総務費			
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	3,150 千円		3,000 千円		3,000 千円										
		計(A)	3,150 千円		3,000 千円		3,000 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.250 人	1,455 千円		0.250 人	1,482 千円		0.250 人	1,451 千円							
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		4,605 千円		4,482 千円		4,451 千円										

		チェック項目		一次評価		一次評価の説明		二次評価			
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	総合計画に掲げるスポーツ振興のための市民スポーツの中心的な活動組織であり、補助金の交付は妥当です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	全市民対象の各種スポーツ大会など体育協会の活動は直接市民の健康増進につながるので有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	概ね達成していますが、各種イベントや広報活動などの市民全体に向けた普及活動を行っていく必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	13団体の構成で活動しており、実施手段を見直す余地もありますが、効率的に補助金を活用しています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	3	3	A	3	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	市民のスポーツ愛好者を増やすために必要な事業を企画する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	協会が自主運営し、企画立案を協会全体で考え、阿波市の体育振興につながる効果的な事業の実践に努めていく必要があります。					多くの子供たちが参加できるよう、企画運営の工夫に努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	18	基本事務事業名	文化財保護(維持管理)事業	事務事業名	文化財保護(維持管理)事業	公的関与	1	シート作成日	平成30年8月10日			
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	林 泰治				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)					3. 人が輝き合う阿波		実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)					(5)文化芸術の振興		☒ 1 該当		平成 年 ~ 平成 年	☒ 期間設定なし			
		主要施策					(3)文化財の保存・活用		☐ 2 非該当		根拠法令等	文化財保護法、文化財の保護に関する条例、阿波市文化財保護条例			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		文化財保護法第2条及び第182条第2項に規定される文化財 (国・県・市指定文化財)											
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	文化財を将来の文化の向上発展の基礎をなすものと位置づけ、保護保存を適切に行うとともにその活用を通じて市民の文化的向上を図っていきます。										
				今年度	市内の未指定文化財について調査研究及び指定を行います。										
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 国・県・市指定文化財のうち、阿波市が管理義務を負う12件の指定文化財の維持管理														
	② ①以外の国・県・市指定文化財において、所有者・管理者が行う保存修理及び活用事業に対する補助助成														
	③ 市内の未指定文化財の調査研究及び、新たな文化財指定														
	④ 秋月歴史公園(市指定史跡 阿波安国寺跡推定地)の維持管理														
	⑤ 文化財保護(維持管理)事業に関する諸庶務														
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	市指定文化財数		市指定文化財数		件	目標	55	52	53	56					
						実績	51	51							
	阿波の土柱保存管理		定点撮影回数		回	目標	6	6	6						
						実績	6	6							
						目標									
						実績									
DO	予算費目	会 計			款	10 教育費			項	5 社会教育費			目	4 文化振興費	
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		4,388 千円		千円								
		県支出金	千円		111 千円		145 千円								
		地方債	千円		千円		千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	3,653 千円		11,704 千円		4,853 千円								
		計(A)	3,653 千円		16,203 千円		4,998 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人	1,746 千円	0.600 人	3,558 千円	0.400 人	2,322 千円							
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		5,399 千円		19,761 千円		7,320 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	保護保存については、文化財保護法第3条において地方公共団体の任務と位置づけられています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	現段階では活用事業実施数が少ないため有効性を判断できませんが、活発な活用事業を実施することによって効果は期待できます。 保存に関しては各項目の設問は該当しません。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	成果が上がっていないのは、活用事業の展開が不十分であることによるもので、事業の活性化により十分な期待値が得られるものと考えています。 保存に関しては各項目の設問は該当しません。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	維持管理や保護保存に関して、多少の効率性は求めることができますが、それを追求することは、文化財保護法の主旨から見ても適切でないと考えています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等 ☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止				☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等 ☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止					
	当面の課題	全般的課題として、文化財保護は地方公共団体の任務として法第3条で位置づけてることから、予算措置や専門職員の採用などを含めさらに保護体制の拡大充実を行う必要があると考えています。 市民の文化的向上を目的とした文化財活用事業として、史跡探索会や市民を対象とした研究会などのソフト事業の活性化、また、市内に豊富にある文化財資源の有効利用として、史跡整備事業などのハード事業の展開も行っています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画						市の文化財への理解度・注目度を高めるとともに、更なる普及啓発に努めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	19	基本事務事業名	文化財保護(啓発)事業	事務事業名	歴史館・資料館事業	公的関与	1	シート作成日	平成30年8月10日					
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課	主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	林 泰治						
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(5)文化芸術の振興				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(4)歴史館等の整備充実・有効利用				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市民													
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	阿波市の歴史・民俗資料などを収集・保存・展示及び資料に関する調査・研究を行う中核施設として位置づけ、活発な普及啓発やイベント事業を実施し、市民の文化的向上を図っていきます。												
				今年度	合併により機能低下した歴史館・資料館の機能回復に取り組みます。												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 歴史・民俗資料などを収集・保存・展示																
	② 歴史・民俗資料などの調査・研究																
	③ 特別展・企画展や歴史講座・シンポジウムなどの各種イベント事業																
	④ 常設展示の充実(展示替え等)																
	⑤ 施設の修繕(土成歴史館の雨漏り修繕)																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	土成歴史館入館者数	展示入館者数	人	目標		1800	700	1800									
				実績		233	130										
	市場歴史民俗資料館入館者数	展示入館者数	人	目標		3000	400	3000									
				実績		222	215										
				目標													
				実績													
	予算費目																
DO	会 計		款		項		目										
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金		千円		千円		千円	数値目標に掲げた展示入館者数は、合併以前の平均入館者数を設定しました。 土成歴史館 = 年間約2千人前後 市場歴史民俗資料館 = 年間約3千人前後								
		県支出金		千円		千円		千円									
		地方債		千円		千円		千円									
		その他特定財源	153	千円	139	千円	150	千円									
		一般財源	5,647	千円	5,575	千円	4,787	千円									
		計(A)	5,800	千円	5,714	千円	4,937	千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人	1,164	千円	0.200 人	1,186	千円	0.400 人	2,322	千円						
		臨時・嘱託職種															
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円							
全体事業費(A+B)			6,964	千円		6,900	千円		7,259	千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	現在は施設管理のみの状態であり、専門職員配置などを含めた拡大充実方向に改善する必要があります。 【注】 拡大充実方向への改善余地がある場合、3を「ある」と評価すると結果は逆方向に評価されてしまいま	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	今後、予算拡充及び専門職員の配置などにより、活発な普及啓発やイベントなどの事業を展開した場合、有効性は期待できます。 専門職員未配置の現状では十分な事業内容となっておらず、配置が望まれます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	施設管理のみの状態である現状を基準とした場合、達成度は概ね達成していますが、常設展示のみでは下降傾向のままになると考えられます。 このため、早急な人的配置などが必要である。また、最終目標を基準とした場合は劣っている。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	コスト面では、定額的な施設管理コストのみで、消極的な事業展開しかできていないため割高になっています。 企画展やイベントなど積極的な事業展開により、効果面を延ばすことが期待できます。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	今後の方向性	3	4	4	3	A	3	4	4	3	A
		○ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	○ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
	当面の課題	○ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		○ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
		活性化が当面の課題となりますが、現状の博物館機能は好転していないことから、更なる事業展開の検討や人事配置の要望を進めていきます。 また、指定管理導入に関して、指定管理者が博物館運営ノウハウを有し、かつ、有能な学芸員の配置がなければ最終目的は達成できないと考えられることから、当面は指定管理者制度の導入はしない方針です。				二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点					
		計画的に特別展やイベントの開催など普及啓発を実施していきます。 また、最終目標実現には、実務経験を持つ有能な職員(学芸員)の配置が必要不可欠ですので、配置ができるように検討や要望をしていきます。				PR方法や展示方法を工夫して、入館者増等の対策に努めます。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	34	—	20	基本事務事業名	文化財保護(埋文保護調査)事業	事務事業名	文化財保護(埋文保護調査)事業	公的関与	1	シート作成日	平成30年8月10日					
	部局名	教育委員会			課名	社会教育課		主務課長名	伊坂 好史		シート作成者名	林 泰治					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		3. 人が輝き合う阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(5)文化芸術の振興				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(4)文化財の保存・活用				☐ 2 非該当		根拠法令等		文化財保護法					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市内に所在する埋蔵文化財													
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	埋蔵文化財を将来の文化の向上発展の基礎をなすものと位置づけ、埋蔵文化財の保護保存を適切に行うとともに、埋蔵文化財保護と開発事業との調整を円滑に行える体制をつくり、また、その活用を通じて市民の文化的向上を図っていきます。												
				今年度	公共事業における埋蔵文化財包蔵地保護について、関係事業課への周知徹底を強化し適切な保存措置がとれる体制をつくります。												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 埋蔵文化財包蔵地内での公共及び民間開発事業の把握及び調整と適切な保護措置 (慎重工事・工事立会・発掘調査の3種類の県教委からの指示事項への対応)																
	② 開発事業における埋蔵文化財発掘調査の受託事業																
	③ 保存を目的とした市内遺跡発掘調査・詳細分布調査・指定史跡内発掘調査事業 (H27年度は実施事業なし)																
	④ 現地説明会・調査報告書の刊行や企画展などの発掘調査成果の公開																
	⑤																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	公共事業における埋蔵文化財包蔵地照会数		公共事業には大規模開発も多いため目的達成には不可欠な指標		件		目標 10 実績 1	目標 10 実績 0	10								
							目標										
							実績										
							目標										
							実績										
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	7	埋蔵文化財発掘調査費			
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考											
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円						
		県支出金			千円			千円			千円						
		地方債			千円			千円			千円						
		その他特定財源			千円			千円			千円						
		一般財源	10,296 千円		24 千円		170 千円										
		計(A)	10,296 千円		24 千円		170 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円		0.200 人	1,186 千円		0.200 人	1,161 千円							
		臨時・嘱託職種															
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円		0.000 人	0 千円								
全体事業費(A+B)		13,206 千円		1,210 千円		1,331 千円											

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	埋蔵文化財の開発対応は文化財保護法で義務づけられたものであり、行政機関以外での執行は公平性・公正性を欠くため、この評価の対象外です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	埋蔵文化財の開発対応及び発掘調査受託事業についてはチェック項目に該当しません。保存目的の調査や成果の公開は目的達成のためには不可欠な要素です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	埋蔵文化財の開発対応における公共事業の事業把握や発掘調査成果の公開が不十分であり、今後一層の強化を図る必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☒ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	埋蔵文化財の開発対応及び発掘調査受託事業についてはチェック項目に該当しません。発掘調査の作業効率において、調査員1名の調査体制では、作業ロスが多々発生しています。新たな調査員の雇用や最新測量機器の導入により効率化を図ることが必要です。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 2	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	埋蔵文化財保護と開発事業の円滑な調整事務体制の確立が急務であり、周知徹底及び指導を一層強化していきます。特に公共事業に関する実績が著しく低下しているため、関係する部課局への更なる周知徹底を強化していきます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	公共事業における開発対応については、継続的に周知徹底を図っていきます。また、照会なく包蔵地内での事業に着手した場合は随時指導を行っていきます。					文化財保護法で義務付けられたものであり、関係機関との連携に努めます。				
	委員会指摘事項										